2023 年度 第 51 回 福祉住環境コーディネーター 検定試験[®]

1級·後半 (記述式)

【制限時間 90分】

第1問

地域で暮らす高齢者を取り巻く多様な課題とその対応に関連する以下の設問に答えよ。

設問(1)

表 1 は、高齢者の世帯形態の将来推計を表している。この表を踏まえ、地域社会において将来的に想定される課題と、その課題に対応するために社会として必要と考えられる対策について、解答欄に70字 \sim 100字程度で記述せよ。

<表1> 高齢者の世帯形態の将来推計

【単位:万世帯】

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
一般世帯	5,333	5,411	5,412	5,348	5,232	5,076
世帯主が 65歳以上	1,918	2,065	2,103	2,126	2,159	2,242
単独 (比率)	625 (32.6%)	703 (34.0%)	751 (35.7%)	796 (37.4%)	842 (39.0%)	896 (40.0% ^{*1})
夫婦のみ(比率)	628 (32.7%)	674 (32.6%)	676 (32.2%)	669 (31.5%)	667 (30.9%)	687 (30.6% ^{**2})

(注)表中の比率は、世帯主が65歳以上の世帯に占める割合(全世帯に占める割合は、※1:17.7%、※2:13.5%)

出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」(2018(平成30)年推計)より

設問(2)

地域で暮らす認知症高齢者にかかわる施策を総合的に推進するために、2015(平成27)年1月に「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」が取りまとめられている。この新オレンジプランの「認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進」や「認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進」などの分野において福祉住環境コーディネーターとして関与できることを、解答欄に200字程度で記述せよ。なお、解答には、新オレンジプランの目的・基本的な考え方についても記述すること。

設問(3)

地域で暮らす高齢者にかかわる課題の1つに「閉じこもり」がある。「外出しやすい環境づくり」 及び「地域活動の拠点整備」という観点から、**住環境整備によって**高齢者の閉じこもり防止に寄 与しうる対策について福祉住環境コーディネーターとして関与できることを、解答欄に200字程 度で記述せよ。

第2問

「ユニバーサルデザイン2020行動計画」では、「心のバリアフリー」を体現するポイントとして、 下記の3点が挙げられている。

- ① 障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること
- ② 障害のある人(およびその家族)への差別(不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供)を行わないようにすること
- ③ 自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと

これに関連する以下の設問に答えよ。

設問(1)-1

①で言われている、障害のある人にとっての「社会的障壁」の具体例を2つ挙げ、解答欄に記述せよ。

設問(1)-2

②について、障害のある人に対する不当な差別的取扱いを禁止した「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が2021(令和3)年6月に改正された(2024(令和6)年4月1日施行)。その主な改正内容を1つ挙げ、解答欄に記述せよ。

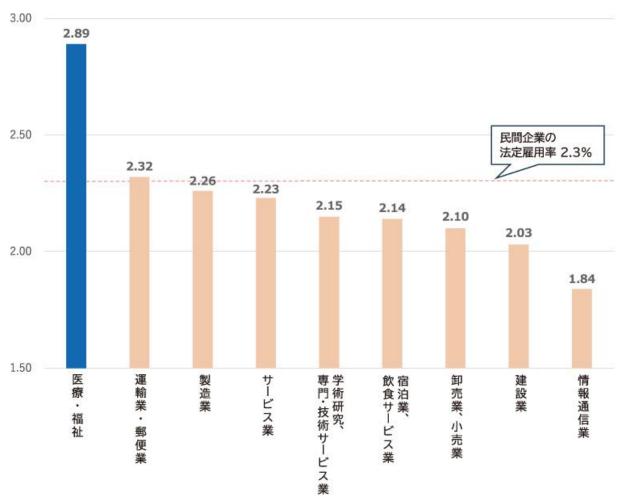
設問(1)-3

③について、障害のある人が排除されない共生型の地域社会を創っていくことが求められている。その具現化として、2018 (平成30) 年に創設された「障害」と「介護」の制度的枠組みを超えた「共生型サービス」の利用を挙げることができるが、障害のある人にとってこのサービスの利用によるメリットを1つ挙げ、解答欄に50字程度で記述せよ。

禁無断転載

設問(2)

図1は、厚生労働省による2022(令和4)年の「障害者雇用状況」の集計結果のうち、産業別に 見た障害者の実雇用率を表したグラフである。「医療・福祉」産業の実雇用率が他の産業と比べて 高いことについて、その理由として考えられることを解答欄に100字以内で記述せよ。



<図1>産業別の障害者の実雇用率(単位:%)

出典:厚生労働省「令和4年 障害者雇用状況の集計結果」(令和4年12月23日)をもとに作成

第3問

NPO法人Aは、B市に放課後等デイサービス事業所(以下「放デイ」)を新たに開所する予定であり、現在、開所に向けて準備を進めている。放デイの概要は以下である。

対象者: 重症心身障害児

利用定員 : 5~7名

スタッフ: 嘱託医1名、看護師1名、理学療法士1名、児童指導員又は保育士2名、

児童発達支援管理責任者1名、計6名

設 備: 事務室、相談室、指導訓練室、台所、浴室、脱衣室、トイレ等

建物環境 : 4階建てマンションの1階店舗部分。送迎車の駐車スペースは2台分確保できる。

1年後の開所に向け、設計事務所より最初の図面案が提示された(図2)。この図面を参照し、 以下の設問に答えよ。



道路(歩道)

禁無断転載

設問(1)

利用者の移動に関しての問題点を2つ指摘し、それぞれの改善方法を、具体的に解答欄に記述せよ。

設問(2)

利用者の排泄環境に関しての問題点を1つ指摘し、その改善方法を具体的に解答欄に記述せよ。

設問(3)

放デイ内のプライバシーについての問題点を1つ指摘し、その改善方法を具体的に解答欄に記述 せよ。

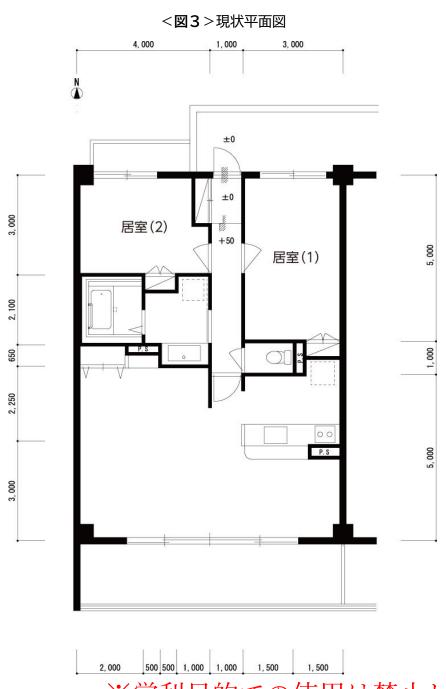
設問(4)

指導訓練室では、利用者を車椅子から床に寝かせたり、トイレでは車椅子からトイレの便器に移 乗させたりする介助動作が頻回に行われることから、抱きかかえ介助における職員の負担が大き くなることが予想される。この問題に対し、抱きかかえ介助の負担を軽減する方法を解答欄に記 述せよ。

第4問

Aさん(65歳・男性)夫婦は、長年二人暮らしをしてきた。お互い趣味を持ち、自治会のイベントにも積極的に参加している。定年退職後もリモートワークを続けながら、二人の生活を楽しみにしていた矢先、夫のAさんが脳血管疾患となり、<u>右片麻痺</u>となった。現在は多点杖を用いて短い距離であれば歩行が可能となり、外出時は車椅子を使用している。

退院する際に、居室に電動ベッドとポータブルトイレを用意し自宅での生活を開始した。浴室は、もともと手すりが設置してあったため、洗体椅子とバスボードを導入し、見守りでの入浴を可能とした。外出時には上がりがまちにミニスロープを設置し、妻(60歳)一人の介助で外出を可能にしている。その後、状態が良くなり、Aさんはできる限り妻の負担を減らし、自分でできる環境を整えたいと考え、居室全体の住宅改修を行うことにした。現在の住まいは、RC造・集合住宅(持ち家)10階建ての5階部分である。居室内においては浴室やトイレの出入り口等に段差はない。Aさんの部屋は居室(1)、妻の部屋は居室(2)である(図3)。



※営利目的での使用は禁止します

設問

A さんができる限り自立した生活を行いながらリモートワークを継続できるスペースを考慮し、 居室内の環境とトイレの改修案等を解答用紙に記載せよ。なお、記載にあたっては、下記の条件 を満たすこと。

条件1:生活がしやすいよう電動ベッド(1,000mm×2,000mm)を配置し、枕の位置を明記する

こと

条件2:リモートワーク用の机(1,800mm×800mm)を記載すること。なお、椅子は記載しなく

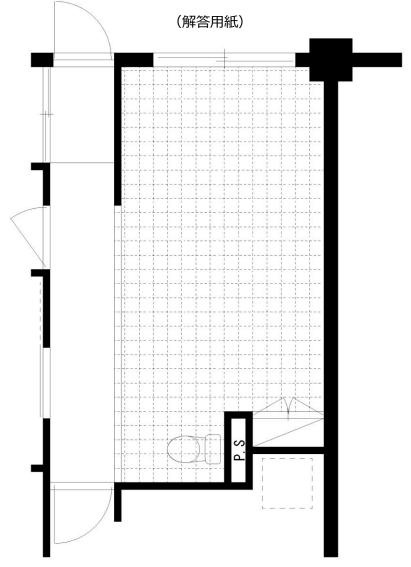
てもよい

条件3:自立可能な排泄環境を整えること。その際、必要と思われる位置に手すりを記載す

ること(これまで使用していたポータブルトイレは使用しない)

条件4:トイレ及び居室の出入り口の場所を計画し、建具と有効開口が分かるように記載す

ること



1マス 200mm×200mm